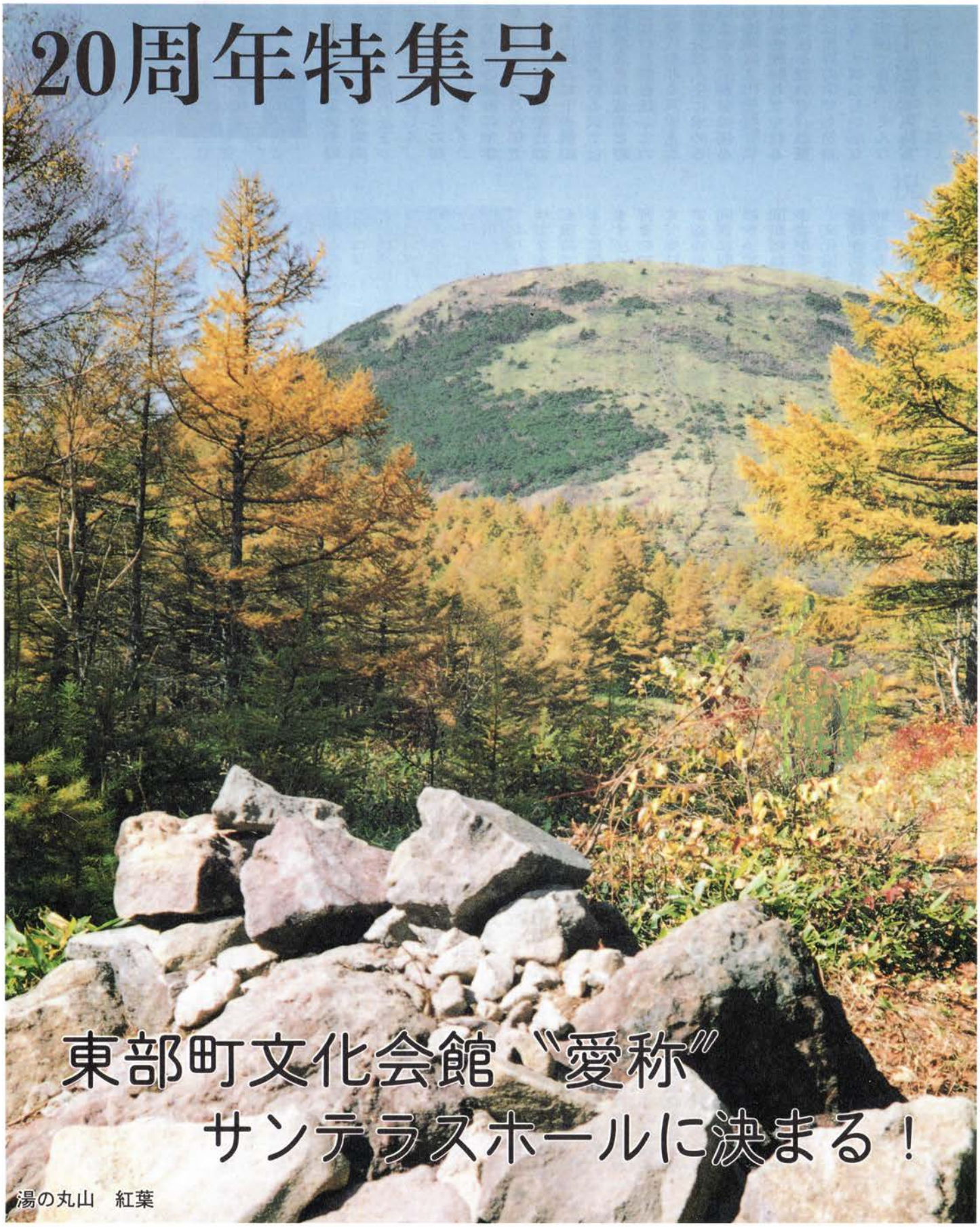
文化協会報

せせらぎ

第9号
発行　平成3年12月3日
東部町文化協会
印刷　東鉄印刷㈱

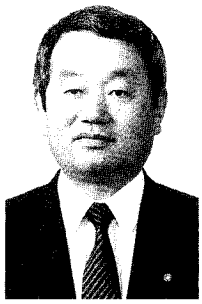


湯の丸山　紅葉

二十周年記念

文化協会発足二十周年によせて

東部町長　保科俶教



東部町文化協会が発足二十周年を迎えられこの間多くの町内外の皆様のご活躍、ご協力によって、発展する町にふさわしく、文化の向上がなされたことに深甚なる感謝を申し上げます。

時代は二十世紀の最後の十年にさしかかり余すところ八年で二十一世紀の扉が開こうとしています。二十世紀と二十一世紀の間に特別な境界がある訳ではないのに、何か大きな変革と新しいものに期待と夢を託している、そんな時代を迎えています。人それぞれ自分の人生に求めるものは違いますが、自分の住んでいる町や地域に文化を理解し、心豊かで自分を理解してくれる人達が数多く住んでいて、お互いにこの町は世界の中でも勿論日本の中でも、すばらしい所なんだなあと実感できる、そんな処であってほしいと願う気持ちは共通したものであろうと思います。それには誰もが、一生涯より豊かに生きるために、いつも自ら学び、それを職場に、家庭に、社会形式に生かして行く、いわゆる「生涯学習」をし、自分自身を高めてゆくことが大切と思います。こう言うと毎日、毎日肩肘を張って生きていかなければと受け取られてしまいそうですが、そうではなく、平凡な日々の中にこうしたことが自然に習慣づけられる事によって、より良い感性が育ち生きる喜びを感じられる様になるのだと思います。

幸いにして、東部町には多くの文化活動が根付いており、それぞれが活発に活動しております。しかしある方から「私はあるサークルに入っていましたが、それがとても重荷でした。やめたら肩の荷をおろしたように気が楽になって良かったと思っています。」という話を聞きました。趣味、学習そして人生も楽しくあるべきものであって、それを楽しくするのも、又つまらなくするのも自分自身であります。何事にも前向きに取り組みたいものです。そして自分のやっている事に理解と協力してくれる仲間が居れば、楽しさは倍増するものと思いますが……。

文化協会発足二十周年を機会に、会員の皆様が新たな意欲を持って、益々活発に活動されますようお祈り申し上げます。それがより豊かな町の発展につながるものと信じます。

二十周年を祝して

東部町議会議長　吉池象次

文化協会が発足して、二十周年を迎えられ、お目出とうございます。心からお祝いを申し上げます。

戦後の混乱も漸くおさまり、各地に「心の豊かさ」を求めて、文化活動が行われる様になりました。当町では、こうした動きに対応して、相互の連絡と研鑽を目的に、文化協会が設立され、今日まで芸術芸能の広い分野にわたって、活動してこられました。現在会員は千八百名余と聞いて居りますが、このすばらしい協会を育てていただいた歴代の役員の皆様に、深く敬意を表すると共に、感謝を申し上げます。

今、町では「町づくりは人づくりから」を基本にして、生涯学習の推進を計って居ります。次代を担う子供達を育てるためにも、大人の私達が、大いに勉強しなければならないと思います。又、高齢化時代を迎えて、身近に、楽しみながら学習して、生き甲斐のある生活を送ることも、極めて大切なことと思います。その意味からも、文化協会の皆さんが、リーダーとなって、この学習の輪が、全町民に広がってゆくことを、期待するものであります。

高速道時代を目前に控え、町も大きく変わろうとして居りますが、私達は各地を視察して見て、教育、文化の基盤が、しっかりして居らなければ、優良企業の立地も無く又産業の発展も、期待できないと言うことを感じました。官民一体となって、更に文化の振興を、計らなければならないと、考えて居ります。

東部町は、山浦刀匠や丸山晩霞を生み、又歌舞伎の伝承等に見られる様に、古くから、文化の進んだところです。この伝統を大切にして、その上に新しい文化を築き上げ、美しい花を咲かせたいと、願うものであります。

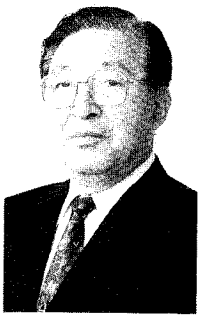
二十周年を契機として、文化協会が益々発展されますことを祈念し、併せて会員皆様の御健勝をお祈り申し上げ、私のお祝いのことばと致します。

町づくりは人づくり

東部町文化協会発足

二十周年を祝って

教育長　長岡克衛



発足二十周年を迎えられた東部町文化協会のすばらしい歩みに謹んで敬意を表し、併せて今後のいよいよのご発展をお祈り申し上げます。

二十年の歳月は、これを人にたとえればはたちに当たりまさに成人の域に達したことになります。

今や時代のニーズは、生涯にわたって学び続ける生涯学習時代に入りました。

そのような時代の流れの中で文化協会に背負っていただきたいことがらは実に多大でございます。

とくに、町づくりは人づくりをモットーにしているわが東部町では格別にもその意味が深いのであります。

町では先年、生涯学習の指定を国から受け、本年度からは、生涯学習課を新設しスタッフを整えるなど出来得る限りの努力をして参っております。

しかし、いつでも、どこでも、誰でも、何でも学びたいことを学ぶ生涯学習の具体的推進にあたっては、町文化協会のご理解ご協力がなくては到底その成果は期せられません。

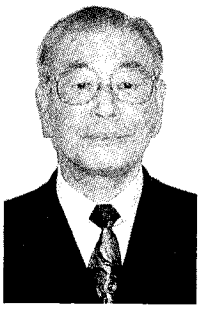
このほど東部町文化会館は、サンテラスホールと愛称がつけられましたが、本年よりここに事務局を移していただいた文化協会がここを根城にご活躍くださるようお願い致します。

丸山晩霞展

生涯学習の中核として

車の両輪

東部町公民館長　関亀一



最近しばしば、近隣市町村の方々から、『東部町は文化活動が盛んですね』、『東部町は燃えていますね』などの、羨望を交えた感嘆の声を聞く。

ここにいう「文化活動」は、趣味や芸術教養に関する活動を指しているのだが、その実情はどうだろうか。少しく数字をあげてみよう。

中央公民館の昨年度年間利用者は約六万名である。これは生涯学習塾・町民大学をはじめとする各種学級・講座や、文化協会加盟グループの学習活動が中心である。

また、分館単位の学習グループも数多く、クラブ数は二百六十七、クラブ員は三千五百名を超え、活動回数は延約四千回、この活動参加人数も、延五万名を超える。

このほか、図書館の年間来館者は約三万七千名、貸出し図書数約五万余冊。文化会館入場者は約三万名を数える。

これらの数字をどうみるか。他町村に比べたとき、まさに燃えている東部町の姿を如実に語るものといえよう。

町では、重点施策の一つとして、生涯学習の町づくりを進めているが、これらの文化的な学習活動は、町づくりの基本である町民一人ひとりの豊かな個性を培う上で、極めて重要である。

公民館では、生涯各期の学習をはじめ、女性問題・人権問題等今日的課題についても、できるだけ多くの学習機会を提供すべく努力をしているが、文化的な学習活動の振興については、文化協会の力に負うところが極めて大きい。

趣味・教養の基礎を培う「いきいき生涯学習塾」は、本年度三十五教室が開講し、約五百名の皆さんが学習に励んでいるが、これは、共催の文化協会の全面的な協力によるものであり、また、学習成果発表の最大イベントである、「総合文化フェスティバル」の中核になる実行委員会の主体も、文化協会である。

まさに文化協会と公民館は、文化的学習推進の車の両輪であり、共にその中核的機関である。発足二十周年を祝うとともに、町民の生涯学習充実のため、文化協会のいよいよのご発展を祈り、その活動の拡充に大きな期待を寄せている。

特集 東部町文化協会歴代会長・副会長

東部町文化協会も発足して二十年、これまでたずさわった歴代会長・副会長さんによせていただきました。

想いで

小林 進

文化協会発足二十周年とのこと、お祝い申し上げます。

協会発足に当り、当時の百瀬町長に先だつものは何とやらで会運営について、町から多大な補助金を下さるべく、お願い申し上げた次第でしたが？

当時町の財政は大変だったと思います。そんななかでも三、四の会には補助金を出して居りましたので、厚かましく、お願いしましたところが、指導料を取って居る会には補助金を出すことはできないと、断わられたのです。が乏しい財政の中より拾万円は補助金として頂戴致しましたが、このことが原因で嫌になり初代寺島会長は会長を去られました。続いて副会長二人も去られて、七、八ケ月は執行部は空席でありました。あれから二十年過ぎて、あの人もこの人も多くを語り合った友も、一人去り、二人去りして、再会することのできない現世でございます……。

一方では、今日のわが町老人会の活躍ぶりを見るにつけ、七十、八十歳の老人達は、健康的で活き々と過ごされている現況が、姿、形こそちがっても、文化協会員の将来像ではないでしょうか。そして何か人の心に残るところの証を残したいものです。

二十周年を顧みて

関 恒代

文化協会設立から二十年という年月の流れに唯々驚くばかりです。当時を憶い出しながら綴ってみます。

二十年前は百瀬町長様でした。その頃社会教育から文化協会の設立を依頼され、町内諸団体の代表の集まりを三度位持った末、初代会長に寺島長虎様、会計に荒井信様、副会長に私が決まり、一年目は会費は集めないで、町の助成金で始めようという事になり、三人で町長さんに助成のお願いに参りましたが、会を設立された事は有難いが、「お金は議会に計らないと即答は出来ない」と言われて帰り、その後数日して拾万円の助成が決まったと記憶しています。会長は「これでは何ができる」と大変に立腹なされ「開店休業」という言葉でした。其の後三度程増額をお願いに参りましたが、ご協力を得られず、其の年は本当の開店休業で終りました。翌年寺島会長様が辞任されて、新会長に小林進様が就任されました。会費を一人百円で事実上歩み始めました。上小地区で一番始めの設立で、東部町は幾多の面で先端を行く町で羨ましいと言われた事が今思い出されます。二十年の間に今日の協会が、しっかり根をおろし、年毎に発展する会を見る時、先代会長と現会長始め役員の皆さんのご活躍の賜と深く感謝申し上げ今後益々のご発展をご祈念いたします。

おもいで

荻原 とめよ

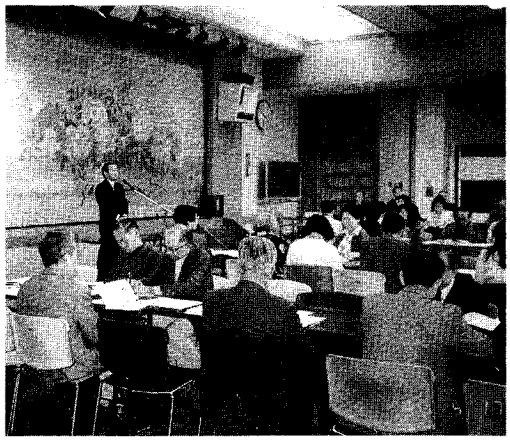
あれから早や二十年、夢の様です。当時文化協会が発足するとのこと、私も張り切って参加しました。

先づ役員選出、事業計画などを決めスタートする事になりました。ところが予算がありません。役員の方が町長さんにお願いしましたが、当時年額僅か金拾万円の補助だけでした。これではだめだ、解散だァ等と言う声もありました。しかし、せっかく出来かかった会を……と又奮いたち、今度は各会員から会費を頂く事となり細々ながら始めたのでした。会は継続と決定したので、皆さんの喜び様は大変なものでした。時間的にも経済的にもゆとりの出来た皆さんは、何かを求めていたに違いありません。次々と入会希望者が多く、役員の皆さんも、ほっとした感じでした。最初はお茶・生花・人形・書道・絵画・俳句・合唱クラブ等。指導者は役員の中に適任者が大勢おいででしたからとても助かりました。次々と各部門も増え、従って人数もふくらみ、合同の作品展の日は、お祭りの様な賑やかさでした。

さて二十周年を迎えた今日、最初は模倣もあるでしょうが、今後は創作にむかい、自分独特の作品を作ることにより、意欲も湧き生き甲斐のある人生を送ることが出来ることと思います。

益々の御発展を祈ってやみません。

平成四年度
東部町文化協会総会



《新役員紹介》

会長 丸山光夫
副会長 関 義豊
〃 小林清枝

町政三十六周年 文化功労賞受賞者

画道に就いて

飯高 徳喜

晩霞先生がその著「水彩画の描き方」の冒頭に「文字を書き得る人に絵画の描けぬと言う事が無い、描けぬというのは描かぬからである」と書いて居ります。

在京中度々晩霞先生の画室を訪れ、揮毫中の様子を拝見して、俺にも描けそうだ、と思ったのが絵の道に這入る切っ掛けでした。それからこの道五十年、未だに迷い苦しむばかりです。絵の道は這入るに易く奥の深いものです。何れの道でもこれで良いのだと思うようになったら最後で、それ以上の進歩は望めないでしょう。祢津絵の会が東部町美術会になって、水彩画壇で有名な不破章、山崎政太郎、阿部広司等各先生方にお願いして数回にわたって講習会を開いたことが会の発展進歩に大いに役立ったように思います。これらは良き助力者良き仲間の方々のお力添えがあってのことですが、町から栄誉ある表彰を受けるに当り思い出した次第です。

現在東部町美術会は、四十有余名の会員を数えるに至り、益々発展の途上にあります。希望者は何時、何方でも加入出来ます。相手が無くて出来ること、足を使い頭も相当に使うので老後の健康保持に最適です。

たかが合唱 されど…

中村 新吾

私の合唱との出会いは、戦後の混乱期の昭和二十六年の夏、高校一年の時である。当時は歌声運動がさかんで、上田の街中でインターを、そしてロシア民謡などが歌われていた。そのような時、上田公園内の公会堂での関西学院大学グリークラブの演奏会である。ヴァイオリンやフルート、ピアノ等の楽器でなく、人間の、しかも五十人、六十人もの男の歌声がこんなにも美しい響きと、ハーモニーの美しさを実感した感動は、いまだ、つい最近のことであった様に鮮明に耳に残っている。この様な感激の中、高校の音楽班での合唱にのめり込んでいった。そして卒業、社会へ出てすぐ市内にあった合唱団へと合唱からはなれられない人生となってしまった。が、これは決して後悔しているのではない。

女声、男声、そして高い声、低い声を組み合わせることでこんなにもすばらしい世界がつくり出せる合唱、それは喜びの歌であり、祈りの歌、そして時に怒りの歌であり、生きとし生ける人間の喜怒哀楽表現の最たるものであると思う。そして、これらの作曲者、作詞者との出会いも得がたい喜びであり、そして多くの、本当に多くの合唱仲間との出会いが、私の人生の大きな財産であると、歌い続けて来たことから多くを学び、大きなものを得ることの出来たことを喜びとしている。そして、はからずも町制施行三十六周年記念式典には表彰の栄に浴し、何か面はゆい思いがする。が、これは、私一人のものではなく町内合唱仲間全員のハーモニーへの表彰であると思います。

なつかしき人へ

白石 みさよ

あれは昭和二十七年頃でした。村にコーラスが生まれ、六、七十人の若人が毎週土曜日に熱気あふれる練習をし続けていました。田植の後疲れてしまってひと眠りしてから歌い出すTさん。合唱が終わっても名残り惜しくて池のまわりを歌いながら帰宅したら夜明けの三時などという事もありました。遠い日の事です。

私は文化には格調高いものを受入れていく面と手作りとが有るけれどその両方がうまく混じって行くのが理想だと思います。もう二十年も前ですがパリのひとり歩きをして見ると橋には美しい彫刻が有り、セーヌで舟を操る夫婦がデュエットをしていたり、マロニエの並木路で晩秋の午後、真紅のコートに身を包んだ八十近い婦人が二人でコーラスをしているのを見てその心の豊かさに感動してしまいました。私も私なりきに自分の心の文化を作って行きたいと思っています。今心ときめいているのは芸大の佐藤真先生ご夫妻をお迎えしての手作り演奏会です。もう一つはドイツのバイエルン国立オペラを見に行かれることです。

夫は空から「一生懸命生きろよ。功労賞もらったんだから」と呼びかけてくれるような秋の日、静かに雲が流れています。

川柳を愛して

田中 勲（蛙声）

九月二十日、東部町発足三十六周年を祝う記念式典が行われ、その席で私も「川柳を通じて、文化の向上に寄与した」と、有難い表彰を受けましたことは、まったく思いもかけない名誉を授けられたようで、夢のような嬉しさで一杯です。

緑あふれる東部町の自然。この自然こそ、金もかからずだれでも描いて楽しめる、心の拠り所でもあります。私の川柳への愛情も、この自然を愛し、自然と親しみながら、人生の安らぎを求めていこうとより深まっていったものです。家にいても、野良で働いていても、町に出ている時も、常に作句にふけっていました。その間地元東部町には、川柳をやる人もなく、私は一人他市町村の川柳会に出かけて、黙々とこの道に情熱を燃やし続けてきました。そして昭和六十年九月、念願の「とうぶ川柳吟社」が草の根を分けて誕生しました。この日の喜びは、生涯忘れることができません。そして県川連に加盟し、その後の当川柳吟社の活躍は、県川柳会の注目となっております。

最後に今回の表彰を機に、今後も川柳吟社の同人と共に、より一層町の文化活動の一翼としてがんばっていきたいと思います。

東部町文化協会二十周年の歩み

文化協会と生涯学習

東部町文化協会長　丸山光夫

東部町文化協会は昭和四十八年町内の文化グループに呼びかけて、昭和四十八年十一月十四日創立発会式を行いました。

参加グループは絵画・写真・書道・舞踊・詩吟・謡曲・合唱・茶道・華道・短歌・俳句・盆栽・棋道・人形等二十八グループ三百四十名位で発足したようです。

役員は年代別に次の方々でした。

○印新任（敬称略）

昭和四十八年　○会　長　寺島　長虎
　　○副会長　荒井　信
　　○　同　関　恒代
昭和四十九年　○会　長　小林　進
　　副会長　荒井　信
　　同　関　恒代
昭和五十六年　会　長　小林　進
　　○副会長　丸山　光夫
　　○　同　荻原とめよ
昭和五十九年　会　長　小林　進
　　副会長　丸山　光夫
　　○　同　小林　清枝
平成元年　○会　長　丸山　光夫
　　○副会長　白鳥　正志
　　同　小林　清枝
平成四年　会　長　丸山　光夫
　　○副会長　関　義豊
　　同　小林　清枝

平成四年度会員数千八百五十名、二百十グループ二十四部会に統合集約されて活発に発表会、展覧会、研修会等を行っております。

発足当時のグループで解散したものや名称を変えたもの等二十年の歴史の中で変化はありますが、新しいグループが数多く誕生して参りましたが最近は小人数のグループが多いようです。

平成四年に文化協会の事務局は中央公民館から文化会館に移行されました。文化会館を中核として今まで以上に文化活動を広く展開したいと思います。

町当局のご配慮により、中央公民館、文化会館の練習室、リハーサル室、会議室、展示室も利用できるようになりました。

サンテラスホールも部会、グループ等の発表会に利用させていただき会員と共に多くの町民の皆様に親しまれて、楽しい憩いと交流のホールになって参りました。

長寿高齢化社会を迎える中で町民一人一学習を目標に「いきいき生涯学習塾」に入って何か趣味を身につけて見ませんか。

文化協会は今日より明日へと確実に前進します。そのことが恵まれた施設を提供して下さった町への感謝と、明るい、平和な、東部町の発展に寄与できると信じます。

文化協会の重要性について

石井補人

文化協会発足二十周年を迎え、お日出度うございます。心からお祝い申し上げます。

協会発足の昭和四十八年は、いわゆる石油ショックの頃でありました。

この激動の時に、ともすれば人の心が荒びがちで、誰もが平和で美しい愛情の通じ合う世の中を願ったのでありました。

この時に、文化協会が誕生したのでありました。これにより町民の連帯感が深まったのは計り知れません。この発足の意味は、偉大であり、今更ながら先見の明に敬意を表す次第であります。

その後二十年を経た今日、人々の間にも自主的に学ぶ姿が目立ってきました。物の豊かさに飽きた時、こころの貧しさに気づき始めたのでありました。そこでスポーツに興じたり、さまざまな趣味活動に時を費やすこととなったのでありました。

いい仕事をするには、いい趣味が必要であり、これこそが仕事の源泉であると言われる所以であります。

また、余暇利用もあまった時間を利用するのではなく、はじめから自由時間を設定してそれを趣味活動に当てるという行動的パターンに転換したのであります。

文化協会は、これらの指導の基盤となるので、重要な機関であるわけであります。

終わりに、協会が二十年を節として、いよいよ発展することを祈念いたします。

茶道

寺島志づ

茶道部会は文化協会発足当時より加入しており、年々増加し今では二流派合せて八グループ、七十余名でございます。

日常親しみあるお茶でありますが、茶道としては珠光に始まり紹鷗に嗣がれ、利休によって大成された高雅な奥深い芸道であります。その奥儀に達するには、何十年かの修行を要するものとおもわれます。

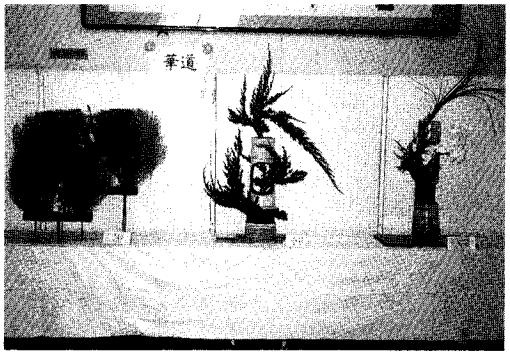
私達は生涯の楽しみにと茶道に入り、それぞれの場にて稽古にはげんでおります。閑疎な庭の中の一室に座し禅味たっぷりの軸物を掛け一輪の花を生け、松風の音（釜の湯の沸く音）を聴きながら頂く一ぷくの茶に幸せを感じます。互いに今日を喜び、みな和敬静寂の精神であればおだやかに、むつまじく幸を喜び合えるものと信じます。

部会紹介

町内には、文化活動をしているグループは二百十グループあります。各グループそれぞれ積極的に活動しています。あなたも何か趣味を持ってエンジョイしてみませんか。グループについての問い合わせは文化協会事務局へ　（電話六二―三七〇〇、有線五〇八―一五）

舞踊部会　小松久子

私ども舞踊部会も、入会二十周年を迎えました。当初十二グループの活動でしたが、今、二十八グループの大世帯となりました。中央公民館で発表を行なっていた時は、舞台照明が暗いとの反省もありましたが、町の象徴たる文化会館の大ステージで発表できる今は、熱も入ります。多忙ながら時間をさき、情操豊に、健康的な親睦を広げ、明るい町づくりに役だてればと、老人福祉大会、農協祭、老人会、各地区文化祭等に積極的に参加しております。各グループの練習に二十年間の成長をおもい、流派をこえての先生方の特別出演には、大変勉強になりました。今後ますますの発展を御祈念申し上げます。



華道部会寺島まさる

東部町文化協会発足二十周年おめでとうございます。東部町の文化活動は素晴らしく、この町で生活している幸をしみじみと感じます。

東部町華道部は、現在、遠州流・小原流・古流松藤会・龍生派・草月流の五流派で、本年度文化協会に加入している部員百三十八名おります。今は花屋さんの店先に行っても初めて見る様な珍しい輸入花や、改良を重ねた新品種の花が沢山並んでいます。その中で日本古来の伝統の美しさを守り続ける人、新しい創造の世界をさがし続ける人、皆それぞれに一生懸命勉強しています。この人達の中から文化フェスティバルには会場の都合で六割程度しか出品できないのが一番心の痛むことです。

民謡の輪を広げ　後世に伝えたい

民謡部会荒木正俊

国際交流が盛んになり、世界中の国々の文化にふれる機会が多くなり、外国の文化を理解出来ることが必要な時代になって来ましたが、外国の文化を知る前に日本人は日本の文化をよく知り、大切にしなければならないと思います。

民謡は大和民族の民衆の中から生まれた謡であり文化であって、日本人の心情をよく表現したものです。祖先から伝承された民謡を広く町民に普及し、後世に伝えたい。東部町に民謡の会が出来て十五年余り、年毎民謡愛好者がふえて十六グループになりました。りっぱな唄い手も誕生しています。グレードの高い東部町文化の一環としての民謡をますます盛んにしたいと思います。

合唱のススメ

文化協会が発足し、中央公民館が完成した時、合唱部会が誕生し、活動を始めました。現在加盟団体は、八団体、二百余名を数えます。昨年文化会館のオープンと共に町の音楽祭の形態も変わりましたのでこれを機会に、盛り立てて参りました。毎年開催されて好評の「東部町コンサート」は、皆様が楽しみに待っていて下さる迄に定着して参りました。今年は十二回目を迎え、佐藤眞先生の「眠れ幼き魂（こころ）」に合唱部会と近隣有志が出演しました。男声の少ないのが悩み、音が重なった時の何とも言えぬ快感、歌い切った時の感激は、筆舌（ひっぜつ）につくせぬものがあります。町中に歌の輪（和）を広めたいと思います。

合唱部会土屋征志郎

第一回東部町短詩型文学祭開催される

町のふるさと創生事業の一環として、町、教育委員会、町公民館、文化協会、同実行委員会の主催により、短詩型関係者待望の短詩型文学祭が、去る十一月二十八日中央公民館に於て、町長並びに関係者多数の参加のもとに盛大に開催されました。

文学祭は、短歌、俳句、川柳、現代詩の部門に別れ、町民及び学童の皆様より多数の応募がありました。

各部門別に選者八名の選考による入選作品の発表及び表彰が次の如く行われました。

応募作品三百四十五点、特選として、各部門別に町長賞、教育委員会賞、公民館長賞、文化協会長賞があり、十二名の方が特選に入選されました。別に秀逸、佳作として合計七十七名の方が入選されました。学童作品にも多数の奨励賞がありました。

表彰式の後各部門別に選者を囲み研究会が行われました。

このような催しが近隣の市町村では既に行われておりますが、東部町でもまた来年も継続して開催されることを、多数の参加者より聞かれましたので、この文学祭が今後も発展して開催されることを期待致します。

（関）

『お知らせ』

文化協会加入の各団体がそれぞれに学習してきた一年間の成果を、次の予定で発表します。町民の多くの皆さんが、ご来場くださいますようお待ちしております。

○いきいき生涯学習塾発表会　二月六日(土)～七日(日)　AM9～PM5　町中央公民館

○邦楽発表会　二月二十一日(日)　AM10～PM4　サンテラスホール

○民謡発表会　二月二十八日(日)　AM10～PM4　サンテラスホール

○無踊発表会　三月十日(日)　AM10～PM4　サンテラスホール

○書初揮毫大会　一月六日(水)～十四日(木)　AM10～　町中央公民館

特集号の編集を終えて

今年は東部町文化協会が発足して、二十周年というひとつの節目を迎えました。この記念すべき年に、町の地域文化の底辺づくりを援助してまいりました文化協会だより〝せせらぎ〟第九号の編集を担当するということは、光栄に思うと同時に責任をも感じます。

二十周年特集号として、二十年を振り返り、文化協会に係わった方々のお言葉、町政三十六周年記念式典にて文化功労賞を受賞された皆様、及び部会紹介等の特集といたしました。

文化協会発足当時の経緯や、協会の運営を軌道に乗せるまでの数々のご苦労が偲ばれる原稿を拝読し、今日、協会がこのようにあるのは、諸先輩の皆様が険しい道を切り開かれた賜物と感謝の思いです。

永い間、それぞれの分野でご活躍され、礎となられ、数多くの皆様を導かれ、文化芸術の発展に貢献され、この度文化功労賞を受賞された皆様、おめでとうございます。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

人は、どこかに自分の生きている証や生き甲斐を捜し求めるものだと思います。そのひとつとして、自分の活動を通して、人と人とが知り合い係わり合い、そこに生まれる情愛によって慰められ、励まされお互い支え合うものだと思います。

絵を描き、花を活け、お茶をたて、詩歌を詠み、書を書き、歌を歌い、何かを創り、やすらぎを得て楽しむものです。人は一人では生きられないし、なにも出来ないと思います。お互いが刺激し合い、認め合って大きな輪になり、手と手を繋ぎ自分の望むものに向って努力するのです。文化協会の活動も同じこと、良きコミニケーションを持って、諸先輩より贈られた今を感謝して、それぞれの道に精進しなければいけないと思いました。

また、文化会館の愛称が〝サンテラスホール〟と決まり、東部町の文化芸術の拠点として親しまれ、愛され、多くの人々に利用されるホールであってほしいと願います。

（清水）

本日ここに、協会だより〝せせらぎ〟第九号ができあがりました。

紙面に制限があり、思うように編集できませんでした。

原稿をお寄せいただきました皆様には感謝申し上げると共に、編集にあたりご協力くださいました多くの皆様に心よりお礼を申し上げます。

丸山　光夫　　柳沢　芳夫
関　　義豊　　佐藤　充子
小林　清枝　　荻原まさ子
小林　武次　　清水さとみ